

# 岸和田だんじり祭りと地域生活に関する研究

-岸和田市大北町を対象として-

## A study on Danjiri festival and residents lives -In the case of Okita-cho Kishiwada city-

建築計画分野 樽谷幸頼

社会が変わる中であっても、人々の気持ちの根本に流れる「地域」を結びつける精神は、ずっとつながってきている。岸和田にはだんじり祭りがあり、そこには何か魅力があり、独自のコミュニティを形成している。本研究ではその岸和田だんじり祭りのある独自のコミュニティの実態を明らかにする。そして、だんじり祭りがあることによって、日常でのつきあい、近所づきあい、地域とのつながりのような日常生活に関する事、さらにはこの地域への意識に与える影響を検討する。

Even if society changes, the spirit that ties the "region" in the root of the feelings of the people, has been connected. There is a Danjiri festival in Kishiwada, there is something attractive there. Then, there is a community of its own. In this study, I will reveal the actual conditions of their own communities with Kishiwada Danjiri festival. And, by the presence of Danjiri festival, I will consider the effects of everyday life, such as the day-to-day relationship connection, association with somebody as neighbors, the ties with the region, and conscious of the region further.

### 1. 研究背景および目的

約300年の歴史と伝統を誇る「岸和田だんじり祭り」は、5つの穀物がたくさん取れるように（五穀豊穡）祈願し、行った稲荷祭がその始まりと伝えられている。現在日本では人口は縮小しており、郊外から若者がいなくなり始めているが、岸和田市の祭りのある地域では他の市町村から移り住んでくる若者が多く存在し、永住しようとする人もいる。これは利便性、環境の質、文化性だけではなく、最も大きな影響を与えているのが「だんじり祭り」の存在であると考えられている。現在は社会の構造も様子も変わってきており、収穫とともに願い、祝うといったことからはじまった一年に一度の祭りは時代が変わり、社会が変わる中であっても、人々の気持ちの根本に流れる「地域」を結びつける精神は、ずっとつながってきている。岸和田にはだんじり祭りがあり、そこには何か魅力があり、独自のコミュニティを形成している。

本研究ではその岸和田だんじり祭りのある独自のコミュニティの実態を明らかにする。そして、だんじり祭りがあることによって、日常でのつきあい、近所づきあい、地域とのつながりのような日常生活に関する事、さらにはこの地域への意識に与える影響を検討す

る。最終的にはだんじり祭りのどのような仕組みがあることで、この地域のつきあい、つながりが継続しているのかを探る。

※本研究はだんじり祭りのことを「祭礼、祭り」、だんじり本体を「地車、だんじり」と表記する。

### 2. 調査概要

調査対象地は大阪府岸和田市大北町である。岸和田市の人口は減少しつつある。大北町は地車を保有しており、世帯数は徐々に増加しており、人口は少しずつ変動があるものの、比較的安定している。アンケート調査では祭り関係のこと、地域での生活に関することを個人に対して伺った。大北町在住の15歳以上を対象に254世帯の各世帯に3部ずつ配り、101世帯から総数135部回収した。それに対して、ヒアリング調査は祭りと町会の関係性といった地域全体のこと、または町会の構成組織または活動の詳細を町会長に伺った。

表1 世帯数と人口総数（岸和田市HP参照）

	岸和田市		大北町	
	世帯数	人口総数	世帯数	人口総数
平成20年	74536	200197	406	1045
平成21年	74956	199592	460	1145
平成22年	75353	199234	465	1159
平成23年	76073	198815	458	1130
平成24年	76706	198086	462	1143

### 3. だんじり祭りと町会の概要

だんじり祭り、町会の構成団体の詳細と活動内容、さらにその2つの関係性を以下に示す。

#### 3.1 だんじり祭りの組織と活動

**祭礼運営の組織** 年番は約200年前から発足され、当番町は浜・町・村の3地区の代表として、年ごとの輪番制。

町が互選で選出し、岸和田だんじり祭りの一切の運営する最高機関である。

※図1の他に、祭礼町会連合会と地車曳行責任者協議会及び岸和田市連合若頭責任者協議会がある。(各町1名選出)

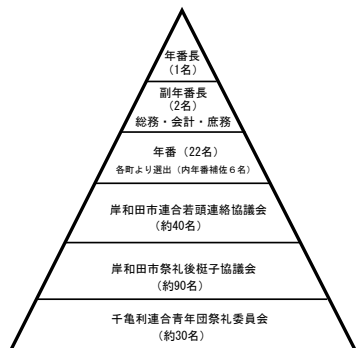


図1 祭礼運営の組織

**町内の祭礼団体** 地車は、各町で所有し、運営については「町会長」が総括責任者となる。また、曳行については、世話人から選ばれた「曳行責任者」が各組織を統括し、指揮と運行の全責任を負う。なお、町会長は「祭礼町会連合会」の構成員になる。

地車を曳行する各町では、年齢層ごとに祭礼に特化した団体を組織し、それぞれその役割を分担し祭礼の運営を行う。祭礼団体には基本的に男性のみが所属することになる。

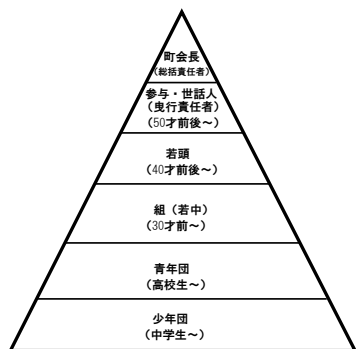


図2 町内の祭礼団体

**祭礼団体の活動** 祭礼組織は団体ごとに祭礼時の役割が異なり、寄合や行事などの活動も基本的には分離して行われるが、活動の内容はほぼ同じである。祭礼団体は祭礼のための活動以外にも、1年を通して、活動している。各団体では祭礼を良くするために日頃から、団体を越えてつきあいをし、意見を交換し合う。祭り前は非常に活発に話し合いを行う。(表4)

#### 3.2 町会の組織と活動

**町会団体** 町会、老人会、婦人会、青年団、子供会の5団体が北町町の公認団体である。最近その他に福祉委員会が設立された。町会は町の住民から町費を集め、そこから5団体には補助金が出る。特に婦人は順番に役員が割り当てられるので、小さい頃から住んでいなくても、役員になり、自然とつきあいをするようになる。このように地域に参加するために後押しする仕組みがある。また青年団として、若い世代が町会の様々な行事に参加するので、町内の人たちと交流し、町内のことを知ることになる。(表2)

表2 町会団体

町会団体名	所属者	役員	任期	選出方法
町会	大北町在住者	評議員、町会長、副会長、会計、幹事、書記	2年	町会長選挙委員会の推薦、または選挙
老人会	町内在住の65才以上	会長、副会長、会計、幹事、班長	2年	互選
婦人会	町内在住の既婚の女性	会長、副会長、会計、書記	2年	町内で順番に割り当て
青年団	15才から20代後半までの男性	相談役、団長、副団長、会計、幹事、書記	1年	互選
子供会	町内在住の小学生以下	育成委員(会長、副会長、会計、幹事、書記)、こども(会長、副会長)	2年	互選
福祉委員会	町会の役員、ボランティア	委員長、副委員長、会計、会計監査	1年	互選、会計は婦人会から、会計監査は子供会から

#### 町会団体の活動

表3 活動の意図、経緯、成果

すべての活動の意図は「若い人たちも高齢の人たちもコミュニケーションが生まれるようにしたい」、発案の経緯は「過疎化が進み、近所のつきあいが希薄にならないようにとにかく人を集めたい」、成果は「あまり親しくなかった人たち、知らなかった人たちとコミュニケーションをはかることができる。さらにとり、近所でつきあいが生まれ、地域内で助け合いができています」と町会長は考えている。

だんじり祭りを含め、町内で各世代が参加できるイベントが多くある。また生活に密着したものから楽しむためのものまで行事、活動の種類も多くあり、新しく移り住んできた人たちも含め、各世代が参加でき、地域に対してアクセスしやすいと言える。(表4)

表4 祭礼、町会団体の活動

所属	団体名	活動
祭礼団体	参与	寄合、新年会、忘年会、御花寄せ、楽策
	世話人	寄合、新年会、忘年会、御花寄せ、楽策
	若頭	寄合、祭礼練習、新年会、忘年会、御花寄せ、楽策、ソフトボール、旅行
	組	寄合、祭礼練習、新年会、忘年会、御花寄せ、楽策、ソフトボール、旅行
	青年団	寄合、祭礼練習、新年会、忘年会、御花寄せ、楽策、ソフトボール、運動会、旅行
	少年団	最近できたところで、活動が多くない。
町会団体	町会	だんじり祭り、廃品回収、常会、会館まつり、福祉活動、美化活動、埋め立てゴミ・廃油の回収
	老人会	カラオケ、クオリティ、体操、グランドゴルフ、歩こう会、友愛訪問、町内清掃
	婦人会	常会、会館まつり、美化活動、新会館の掃除、祭礼見送り、祭礼後片付け、旅行
	青年団	だんじり祭り、廃品回収、会館まつり、美化運動、害虫駆除の葉撒き、夜警監視、献血
	子供会	だんじり祭り、会館まつり、歓迎会、キャンプ、クリスマス会
	福祉委員会	いきいきサロン、友愛訪問(独居老人訪問)

#### 3.3 祭りとのつながり

表5 祭りとのつながり

**祭りから町会に向けて**  
 ・今年は大北町の新会館が20周年ということで、各祭礼団体から町会に会館まつりの景品を寄付した。  
 ・金銭面では祭礼終了後、各祭礼団体から各町会団体へお礼として寸志を渡す。  
 ・子供会のキャンプには青年団が付き添いで3、4人ついて行く。  
 ・祭り本番に若頭、15人組から子供会にジュースやアイスを配る。  
 など祭礼団体から町会にしている活動は様々である。さらに、地車は町会の持ち物なので、その地車を任せて、祭礼団体は「大北町として立派な祭りをさせてもらった。」「良い祭りをしてくれる。」と思われるような祭りをすることである。つまり、祭礼関係者は大人から子供まで町民全員さらにはその周辺の人々を楽しませる、喜ばせる義務があって、町民が良い思いをできるようにすることが大事である。

**町会から祭りに向けて**  
 地車は町会の持ち物であり、だんじり祭りは町会の1つの行事である。だんじり祭り本番の曳行中の責任者は世話人から選出する曳行責任者であるが、総括責任者は町会長なので、日常で祭礼団体が問題を起こすとすべて町会長のところに連絡がはいる。この地域に住んでいないが、祭礼団体に所属している人たちのことも町会長に連絡がはいることになる。町会からは地車に必要な費用として、祭礼団体の世話人から選出した総務会計に補助金を渡す。総務会計はそのお金で地車に必要なもの(てこ、こま、ぶち、つな)を購入する。購入するときは町会長の許可が必要である。要するに、町会はだんじり祭り本番では地車とそれに必要な費用を曳行責任者を筆頭とした祭礼団体に預け、そのかわり、祭礼関係者は町民全員を楽しませるというものである。また、他の町より祭礼との結びつきが強く、町会長が若頭、15人組、青年団などで一緒に飲むということがあり、他の町にはないことである。

町会と祭礼団体が重なるのは青年団だけだが、祭礼関係者が町会にも所属しており、非常に重なる部分は大きい。この2つのものが様々な活動や精神的なもので、相互に関係し合っているため、非常に密着し、組織としてそれぞれが安定したものとなる。

### 3.4 祭りと町会から地域へのつながり

表 6 祭りと町会から地域へ

<p>祭りから地域に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・青年団は町会の団体でもあるので、害虫駆除の葉撒き、廃品回収、夜警巡視、美化運動、また15人組、青年団の献血運動への参加</li> <li>・祭りの後片付けは自分たちの場所以外にも掃除をする。</li> <li>・だんじり祭りでの町というブランドで人が寄ってくることもある。</li> </ul> <p>精神的には地域の人のためにも良い祭りを行うことが重要である。また地域からは祭礼の際の御花寄せなどその他にも協力してもらっていることがある。また祭礼団体に対して、声援、またお叱りを受けることもあり、切っても切れない関係にある。</p> <p>町会から地域に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・廃品回収、美化運動（月に1回の町内清掃、年に2回の浜校区での清掃）、害虫駆除の葉撒き、埋め立てゴミ、廃油の回収</li> <li>・会館まつりなどの町民が楽しめるイベント（老人会、子供会のイベントも含め）</li> <li>・赤い羽根共同募金、助け合い運動の募金（恵まれない子供たちに対しての募金）</li> <li>・常会での情報伝達など町会から町民に対してしていることは様々ある。これらはすべて町民の生活の豊かさ、町民同士コミュニケーションのためにしている町会長はおっしゃっていた。逆に地域からは町費、廃品回収への協力、葬式の際の粗供養などがある。</li> </ul>
---

町会は町民に良い快適な生活を送ってもらう。祭礼団体は町民にだんじり祭りを楽しんでもらう。ということで町会と祭礼団体が連携することで地域に気持ちの豊かさを与えていると考えられる。

### 3.5 地域での活動、つきあい

地域での活動でのアドプロードを1つ例にあげる。

表 7 祭りと町会から地域へ

<p>町会関係なく、ご近所の少人数で自発的に町内の植え込みの一部を手入れしている。以前はゴミだめであったが、5年前から始め、信号待ちの方が見てくれ、評判もいい。年に2回の植え替えの際に、お茶をし、月に1回雑草抜くなどの手入れ、季節の花を植えている。近くの小学校からひまわり、パンジー、チューリップなどの苗やあまった種をもらって、植えている。町会から水道代だけをもらって、近くの家に交渉して、その水道代をわすれ代わりに自由にその家の水道を使っていることになっている。この活動は少数の町民がし始め、町会や小学校を巻き込み、最終的には町民どうしのコミュニケーションのツールとなっている。</p>
--

基本的に町内に住んでいる人たちだけで構成されている少数のグループ（ひょうたん会、ひょうたんクラブ、朋輩会、浪切講など）があり、これ以外にもヒアリングによると、町会、祭礼で仲良くなり、近所同士で旅行に行くといったことも何うことができた。

### 4. 調査対象地の居住者属性

「何世代前から住んでいるか」という質問に対して男性は父・母の代より以前から住んでいるという回答が比較的多い。女性は自分の代からという回答が、52%と非常に多く、嫁いできた方が多いと考えられる。

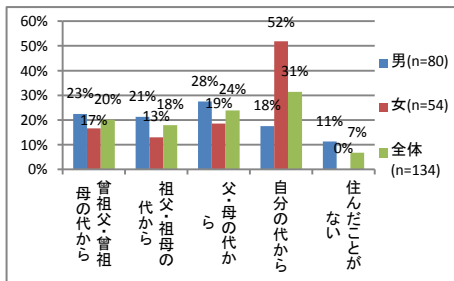


図 3 地縁

**祭り参加の有無** 以下、祭り参加の有無の定義を示す。

表 8 祭りへの参加の定義

<p><b>祭りへの参加の定義</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○：祭礼団体に所属している、本番ついて走る</li> <li>△：見に行く、以前参加していた、テレビで祭りを見る</li> <li>×：全く参加しない、祭礼中は違う場所に出かける</li> </ul>
---

祭礼団体には男性のみが所属できるので、女性には所属できない祭礼団体は現在ではない。男性が「○」が多く、女性が「△」を答えたことにその要因が大きく影響していると考えられる。女性は祭り自体には参加はしていないが、見に行く、以前参加していたなど、祭りに関わっている方が多い。全体では9割以上が祭りに関わっていることがわかる。

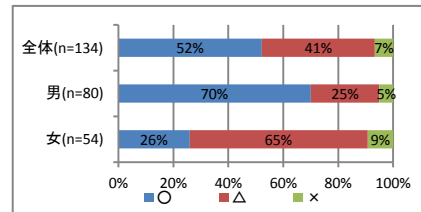


図 4 祭りへの参加の有無

家族の祭りへの参加の有無 本人が「○」と答えた方の中では67%が家族も祭りに参加していると回答した。祭りに関わっている方は家族も参加している場合が多く、参加の程度が低い「△」、祭りに全く関わりのない「×」と答えた方も間接的に祭りに関わっている場合がある。

家族の祭りへの参加の有無 本人が「○」と答えた方の中では67%が家族も祭りに参加していると回答した。祭りに関わっている方は家族も参加している場合が多く、参加の程度が低い「△」、祭りに全く関わりのない「×」と答えた方も間接的に祭りに関わっている場合がある。

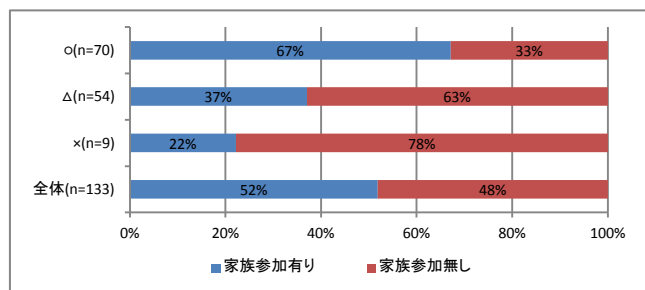


図 5 家族の祭りへの参加の有無

### 5. 祭りに関する活動、考え方（男性）

男性で祭礼関係者の活動の参加の程度、考え方を分析し、さらに8以降ではそれらを基に分類し、この地域の中での日常生活とどのような関係性があるのかを考察する。

#### 5.1 活動全般への参加の程度

祭礼団体としての主な活動を14項目挙げ、それぞれに0~5（5：必ず参加する、3：半分ぐらいは参加する、1：ほとんど参加したことがない、0：参加したことがない）の選択肢を点数として、合計し、祭り関係の活動全般への参加の程度を検討する。14項目すべてに「5（必ず参加している）」と答えた場合、70点となる。平均の点数は43.7点であり、半分程度参加していることになる。つまり、祭り本番だけ参加するということは少なく、祭礼団体に所属していると祭り本番以外、1年を通して、その他の様々な活動にも参加することが多い。

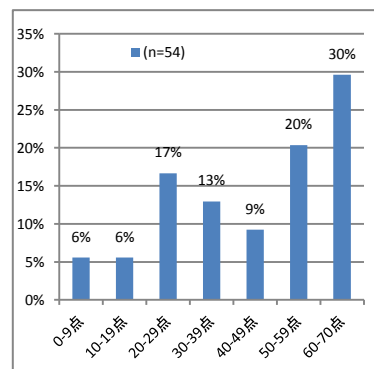


図 6 活動への参加の程度



## 5.2 寄合への参加の程度

寄合は各団体共通して行っており、祭りに関する活動の中では月に1回、1年を通して最も主な活動である。寄合も同様に0～5の選択肢を点数として、評価する。4点以上が86%なので、9割程度が、1年を通して、月1回、寄合に参加している。日常でつきあいのない人たちとも祭りの行事として、顔をあわせることになる。

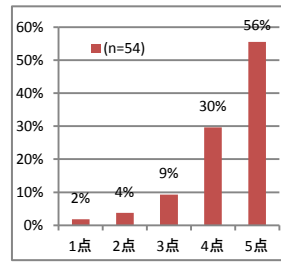


図7 寄合への参加の程度

## 5.3 祭りへの考え方

祭りへの考え方の選択肢を1～5の点数として、評価していく。4点が最も多く、次いで、3点が多い。全体の平均では3.9点であり、所属している方は生涯祭りに関わっていこうと考えている傾向が見られた。

表9 祭りへの考え方

祭りへの考え方	
5点	祭りのない人生は考えられない
4点	祭りが好きで、この先ずっと続けていこうと考えている
3点	祭りがあってよかった
2点	祭りがあってもいい
1点	祭りはない方がいい

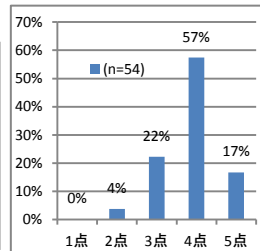


図8 祭りへの考え

## 5.4 参加の理由

「人間関係が楽しいから」が最も多く、次いで「伝統行事を守りたいから」、「小さい頃から参加しているから」が多い。祭り関係でのつきあいが多くあり、人間関係が充実していることがわかる。そして、小さい頃から参加できる仕組みが機能していることがわかる。また、この地域に対して愛着を示す方も多い。

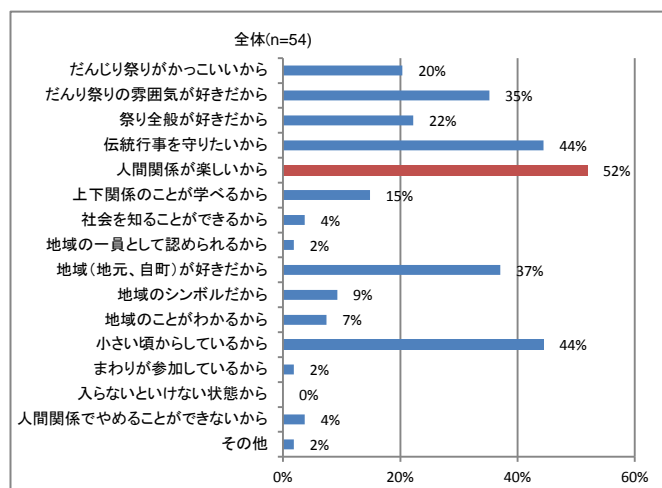


図9 祭りへの参加理由

## 6. 祭りに関する活動、考え方(女性)

女性で祭りへの参加の程度、考え方を分析し、さらに8以降ではそれらを基に分類し、この地域の中での日常生活とどのような関係性があるのかを考察する。

## 6.1 祭りへの考え方

5.3と同様にして、選択肢を1～5の点数として、評価していく。

全体の平均点は2.9点であり、男性よりは低い点であるが、祭りがあってよかったと考えている傾向がある。

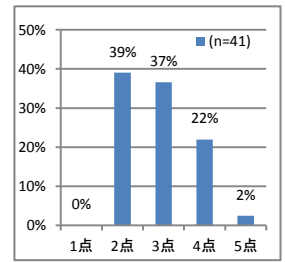


図10 祭りへの考え方

## 6.2 祭りを通しての出会い

「非常にある」、「ある」、「たまにある」を合わせると7割程度の方が祭りを通して、知り合うことがあると回答した。祭りは女性に間接的なつながりで新たな出会う機会を与えていることがわかる。

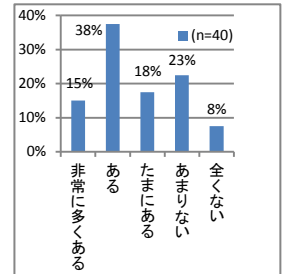


図11 祭りでの出会い

## 7. 祭りへののめり込みの評価

だんじり祭りに対して、参加の程度と考え方を考慮して、だんじり祭りにのめり込む程度を「のめり込み度」とする。

### 男性の場合

以下の①～④を条件として、のめり込み度を分ける。

- ① 祭りへの参加の有無での、「○」、「△」、「×」
- ② 活動全般への参加の程度が35点以上
- ③ 寄合への参加の程度が4点以上
- ④ 祭りへの考え方が4点以上

表10 のめり込み度の評価基準(男性)

「強」	条件①が「○」、かつ条件②～④を全て満たしている。
「中」	条件①が「○」であるが、条件②～④を全て満たしていない。
「弱」	条件①が「△」あるいは「×」である。

### 女性の場合

以下の⑤、⑥を条件として、のめり込み度を分ける。

- ⑤ 祭りへの参加の有無での、「○」、「△」、「×」
- ⑥ 祭りへの考え方が3点以上

表11 のめり込み度の評価基準(女性)

「強」	条件⑤が「○」、かつ条件⑥を満たしている。
「中」	条件⑤が「○」であるが、条件⑥を満たしていない。 あるいは条件⑤が「△」、かつ条件⑥を満たしている。
「弱」	条件⑤が「△」であるが、条件⑥を満たしていない。 あるいは条件⑤が「×」である。

## 8. のめりこみの強弱と日常の活動、つきあい

7に基づいて、のめり込み度「強」、「中」、「弱」に分け、のめり込み度の違いによって、日常への影響、地域への影響の違いを評価する。

男性は「強」、「中」、「弱」のそれぞれ総数が26で33%、28で36%、24で%であった。女性は「強」、「中」、「弱」のそれぞれ総数が12で33%、15で42%、19で53%であった。

## 8.1 のめり込みの強弱と日常のつきあい

**関係性** 仲の良い人7人あげてもらい、その人たちとの関係性を分析する。

男性では祭りが非常に多く、「弱」の場合も3割程度いる。近所は男女ともにのめり込み度に関係なく、多く、近所づきあいがされていることがうかがえる。また、町会では男性より女性の方が多く、特にのめり込み度「強」の場合よりも、「中」、「弱」の場合の方が多い。この地域の女性にとって、関係性を築くときに町会が重要な役割を果たしていることがわかる。

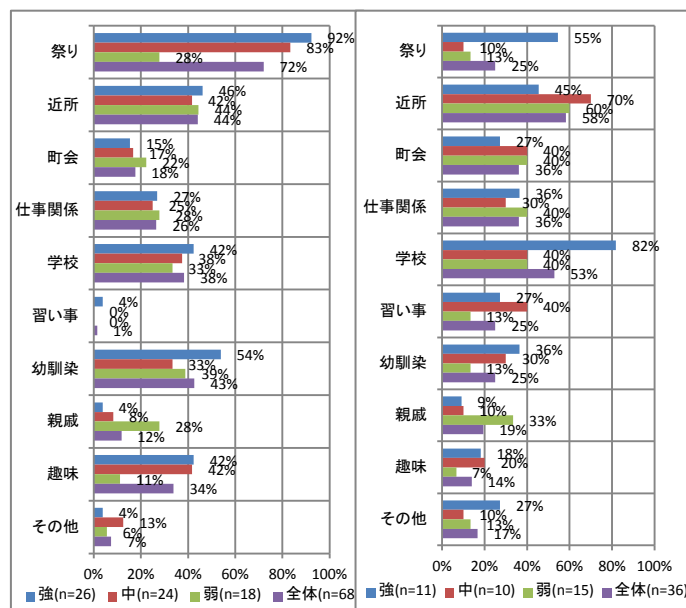


図12 関係性 (男性)

図13 関係性 (女性)

**知り合うきっかけ** 男性はのめり込み度「強」、「中」の場合は6割から7割と祭りが出会うきっかけとなっている男性の「弱」では近所が「強」、「中」より比較的多く、祭りに参加していない場合は、近所が知り合うきっかけとなっている。女性の場合はのめり込み度に関係なく、近所、町会が多く、近所でのつきあいがあり、そこで新しく知り合う可能性がある。

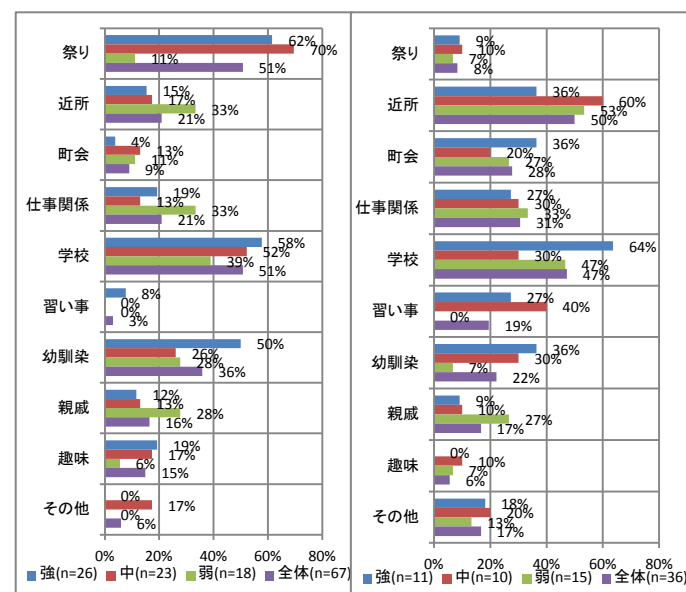


図14 知り合うきっかけ (男性)

図15 知り合うきっかけ (女性)

## 8.2 のめり込みの強弱と近所への考え方

男女ともに「強」、「中」は「できるだけ協力していきたい」、「何かあったときは協力しようと思う」、「あまり関わりたくない」、「全く関わる気はない」、「わからない」という項目にはほぼ全員が該当する。また、「弱」は8割程度が該当する。男女ともに祭りへのめり込み度と近所への考え方は関係しており、「強」になるほど、近所に対して協力していこうとする考えがある。この地域全体では、男女ともに9割程度が協力していきたいという意識を持っている。

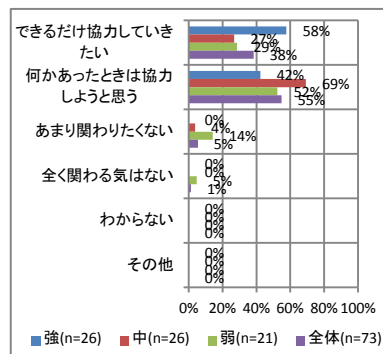


図16 近所への考え方 (男性)

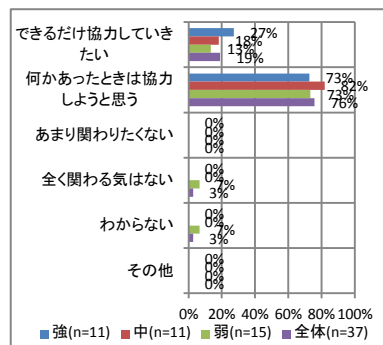


図17 近所への考え方 (女性)

## 8.3 のめり込みの強弱と地域とのつながり

男性の「強」は「非常に強くつながっている」、「強くつながっている」に9割が該当する。「中」、「弱」での違いは見られない。「中」、「弱」と比べると、「強」と大きく違い、男性の「強」は非常に地域とつながっており、まわりに影響を与えていることが考えられる。

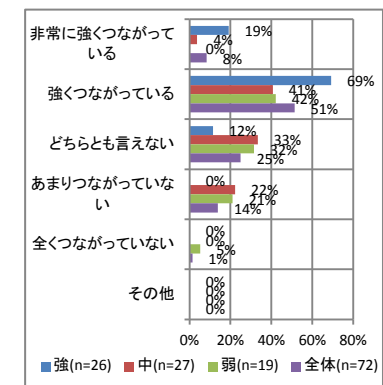


図18 地域とのつながり (男性)

## 8.4 のめり込みの強弱と町内活動への参加理由

女性は関係が見られなかったが、男性は祭りへのめり込み度と町内活動への参加は関係しており、「強」になるほど、町内活動に参加していた。その参加理由として、男性の「強」は「自分の地区を盛り上げたいから」が多く、地域とのつながりを考慮に入れると、やはり地域に与える影響は大きい。「団体に所属しているから」が「強」、「中」ともに多く、やはり祭礼団体があることで、地域の活動に参加し、地域ともつながっていく仕組みになっている。男性の「弱」と女性は「団体に所属しているから」、「子供のため」、「つきあいではないといけないから」という自発的でなく、間接的に参加へ導かれるような理由が多く、間接的なつながりが地域へ引き寄せていると考えられる。

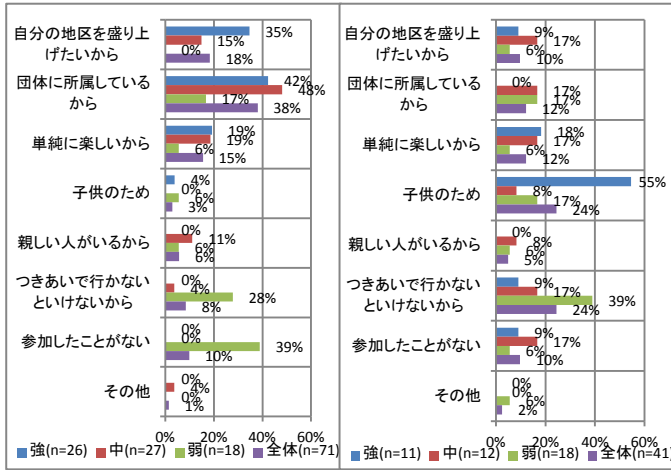


図 19 参加理由 (男性)

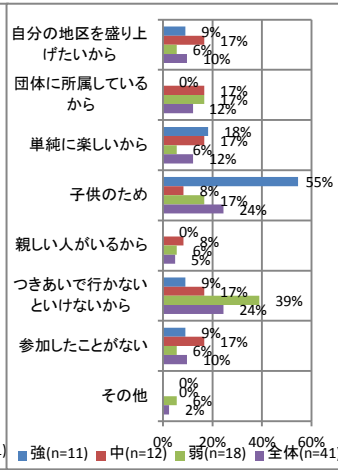


図 20 参加理由 (女性)

### 8.5 のめり込みの強弱と地域の評価

男性と同様に女性も祭りへののめり込み度と地域の評価は関係しており、「強」になるほど、地域に対して誇りに思っている。「非常に誇りに思う」、「誇りに思う」には男性は84%、女性は63%で、この地域の人たちの大半は誇りに思っていることがわかる。「どちらとも言えない」は全体では2割程度で、「あまり誇りに思わない」と答えた方はすべての票の中で1票だけである。

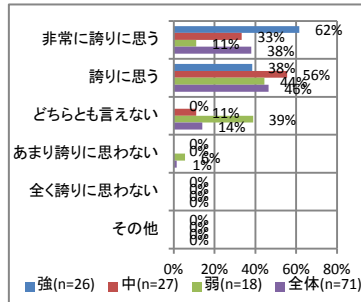


図 21 地域の評価 (男性)

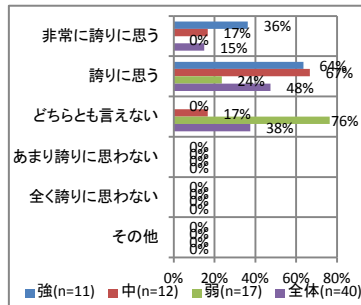


図 22 地域の評価 (女性)

### 8.6 のめり込みの強弱と地域の評価理由

男女ともに2番目は居心地の良さである。また男性、女性ともに人間関係の項目を合わせると3割程度と比較的多く、人間関係が良好に築かれているのがわかる。

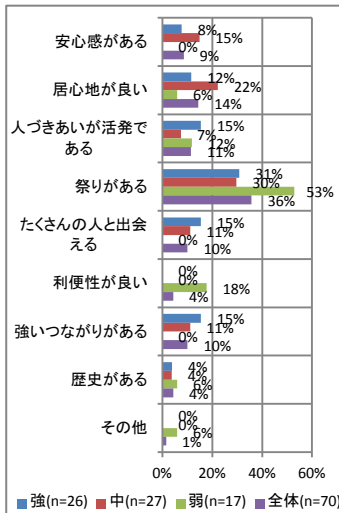


図 23 地域の評価理由 (男性)

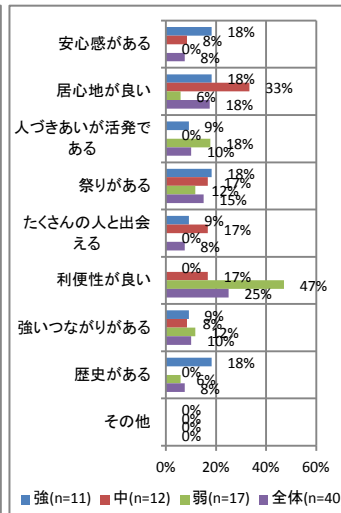
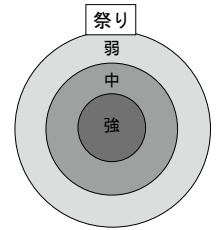


図 24 地域の評価理由 (女性)

## 9. 結論

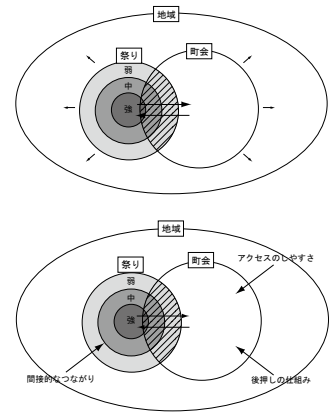
### I. だんじり祭りのつきあい

だんじり祭りのつきあいではだんじり祭りへののめり込みの程度が違い、それが大きく影響する。「強」の場合では多くのつきあいがされており、強いつながりがある。「中」では比較的強いつながりや弱い関係性があり、ある程度段階がある。それに伴って、人間関係の広がりがある。



### II. 町会と祭りの関係性

祭りと町会は活動や仕組みで多くのことを相互に関係し合うことで、それぞれが組織としてより安定したものとなる。そして地域に影響を与える。

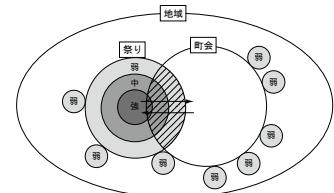


### III. 地域の活動への参加

この地域では祭礼団体、町会団体で様々な活動があり、地域へのアクセスしやすさがある。また婦人会の役員が割り当てられるように地域に入りこむ後押し仕組みがある。さらに祭礼団体などの強いつながりで、間接的なつながりで参加する場合もある。このように地域に入りこむ要素がある。

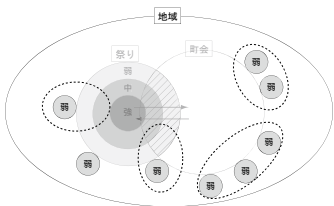
### IV. 弱い関係性、つながり

IIでの祭礼団体、町会からの働きかけとIIIでの地域に入りこむ要素があり、今まで関わったことのない人たちと関係性ができる。それは弱い関係性、つながりである。



### V. 小さなまとまり

祭りや町会を通さなくても、近所同士または今まで知らなかった人たちとの間に小さなまとまりができて、日常でもつきあいをする。



段階的にI~Vがあり、この5つが絡み合っ、日常に影響を与えている。それが近所での非常に強い協力意識、居心地の良さにつながっている。つまり、だんじり祭りがあることでこの地域では日常生活が豊かになっている。そしてだんじり祭りの特徴として、1年間通してある様々な活動、異年齢と交流する仕組み、各世代に役割があり生涯参加できる仕組み、町会との関係性があり、これらのおかげで、現在でもこの地域のつきあい、つながりは継続している。

## 討議

### 討議 [吉田先生]

研究の方法として、ここだけを調査した時に本当に岸和田のだんじりの特徴という風に言えるのか、また祭り全般の活動そのものが影響を及ぼしているのか。というところがわかりづらくなってしまっているので、こういうことをするときには相対的な位置づけをしないといけないと特徴が言いにくいというのが、一点と、最後のところで言っていた異世代との交流とか、どういう結果の中で導かれたものなのか。細かなところを取っていけば、こういう結論にできると思います、根拠を知りたい。

### 回答

まず1つ目の質問に対しては、アンケート調査は1つの町に対して実施したが、アンケートを作成する際は他の町にもヒアリングをして、1つの町で特徴の出ない、他の町でも答えることのできる質問項目を作成しました。ここでは、祭りの一般的な回答と考えている。

2つ目の質問に対しては、アンケート調査の中で「祭り関係の知り合いでつきあいの多い5人あげてください。」という項目があって、その5人について、年齢や、関係性、知り合うきっかけ、現在のつきあいの程度をお答え頂き、年齢の欄では異年齢を答えたのが、全体の7割程度いました。

### 討議 [倉方先生]

1つ目の質問について、他の町も祭りをやっているということですか。

### 回答

はい。他の町もだんじり祭りをしています。

### 討議 [倉方先生]

そうすると、1つ目の質問に答えてないと思うのですが、だんじり祭りと祭り一般のものとの差を答えてもらいたい。

### 回答

祭礼団体と町会の関係性が非常に密で、相互で様々な活動をし合っています。また、その影響もあるかもしれないが、町会が複層化されています。そういうところが特徴的です。

### 討議 [内田先生]

修士論文でもパワーポイントでもあったのですが、

なぜそのような古い写真をあなたも持っているのか。

### 回答

私もだんじり祭りに参加している1人だからです。

### 討議 [内田先生]

そうですね。他の部分との相対比較があまりにも欠如している。なぜこの1つの町だけでまとめようとしたのですか。だんじり祭りは岸和田だけではなく、他にもたくさんあるでしょう。ここで書いてあることはだんじり祭りの文献を見れば、わかることしか書いていない。そうじゃないところをアピールしてほしい。

### 回答

この町は、人口が増えているからです。だんじり祭りがあるところでも、岸和田以外では基本的に人口も減ってきています。さらに岸和田の中でも減ってきているところもあります。

だんじり祭りの本では祭りに参加している人たちについて書いているものばかりです。しかし、この論文では祭りに参加していない人たちも対象にしており、その人たちの近所づきあいの実態も調査しております。

### 討議 [内田先生]

祭りがあるところはどこでもこういった社会組織はありますよ。これはコメントです。